
投げやり勇者！

オデュー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

投げやり勇者！

【Nコード】

N1918P

【作者名】

オデュー

【あらすじ】

地名が料理名、人名が動物名。

色々と突っ込み所のある固有名詞に、人々達。

魔王が出現したというのに、肝心の勇者がなんだか投げやり。

彼等の旅は始まる？それとも華麗にスルー？

ラザニア大陸というとても大きな大陸に、幾つもの国々があった。モンスターに魔物、妖怪までもが居るこのご時世、各国では『一国に一人』の割合で勇者が居た。

しかし勇者と言っても、皆が皆一概に正義感に溢れ、熱血だったり博愛主義だったりするわけではない。

幾人かは変わった性格の者だっている。

その変わった性格の中でも1、2を争う勇者が、ここ、グラタン国にいた。

「はあゝ。産まれてこのかたずっと気になっていたんですけど、どうして国名が料理名ばかりなんですか。名付けた人はよっぽどの空腹だったに違いないですね」

「空腹からじゃねえだろ。そんな理由だったら嫌だわ。ってか、それよりも何よりも産まれてからとか…御前どんだけ赤ん坊の時博識だったんだよ」

「失礼ですね。知性の塊とも言えるこの僕に向かって」

何とも呑気な会話を繰り返しているのは、実はこの国の勇者とその仲間の剣豪である。

先刻から国名に愚痴るのは、勇者アヒル。

パツと見王子を思わせる金髪碧眼に端麗な顔立ち。

癖っ毛の柔らかい髪がふわふわしている。

それに返事の代わりに突っ込んだのは、剣豪のカラス。

彼は長めの黒髪を後ろで一つに縛っている。
同じく黒の瞳の奥からは、突っ込み疲れの色が見えたり見えなかったり。

間の抜けた会話だったので弁護の為に言っておくが、こんなんでも彼等はその道では一級の者であった。

「まっ、そんな事はどうでも良いんですよ。本当に退屈で平和すぎますね」。魔王とか降ってきませんかね」
「否、そんなもん中々降ってこないだろ」

勇者に有るまじき発言をしたところ、行き成り部屋の扉がバアアアと派手な音を立てて開かれた。

「ハッ！来たな、魔王の手下！！」

そう叫んだあと、アヒルは前にいたカラスを盾にし、陰に隠れる。

「俺を盾にするな。そしてよく見る。あれはウサギだ」

「はうううう、アヒル様あ！4時間26分と5.9秒ぶりにお会いできました。その長い間も、ウサギは一瞬でも貴方の事を忘れる事はありませんでしたっ」

熱烈に語り始めるウサギと呼ばれた少女は、小動物の様に小さくて可愛い風貌をしている。

背中まである桃色の波打つ髪に、赤の大きな瞳。

フリルのついた可愛いドレス。

黙っていれば人形と違われてしまってもおかしくは無い。

「あー、はいはい。その話は後で聞くとして、何かあったんだろ？そんなに慌てて。急用か？」

「そうでした！すっかり忘れてしまっ所でした。さっき緊急の連絡

が届いたのですが…魔王が降ってきたそうです!!」

「マジ（です）か!!」

息びつたりに揃う。

「それで、是非とも我がグラタン国の力をかりたいとの事で…」

「よっしゃ。こんな絶好のチャンスはねえ。旅に出るぞ、アヒルっ！」

嬉嬉とするカラスは、アヒルの手を引き急かす。

しかし当のアヒルは

「ええ、面倒臭いです。適当にカラス君だけで倒してきて下さい」と、先程の魔王云々はどこへやら、駄々をこね始めた。

「なっ、御前勇者だろ！」

めげずに尚食いさがるカラス。

「おい、ウサギからも何とか言ってやれよ」

「私はアヒル様がそう仰るなら一緒に…」

きやあ、と頬を染め、一人の世界に入っていくてしまう。

「…でもさあ！」

「でも？でもなんですか。困っている人を助けるのが僕等の役目、ですか？勇者って言うのは人を助ける為の仕事じゃないですよ。ほら、辞書にも『人が中々やらない様な事を的確な判断力と忍耐力で見事にやってのける人』と書いてあるじゃないですか」

何所からか辞書を取り出し、勇者、と書かれたところを指さす。

「大体落ちてきたと言っても何所かの遠い国なんでしょう。…どうせオムライス国とかいう名前の。その場合は責任を持ってオムライス国の勇者の方々が魔王を倒すべきなのではないですか？」

「まだオムライス国とは決まってねえだろ」
なんだか正論を言われているような気がして、取り敢えず突っ込めるところは突っ込んでおく。

「流石アヒル様。でもちょっと違います。正確に言えばオムレツ国です」

自分の世界からやっと帰ってきたウサギが、キラキラとした眼差しで彼を見る。

「……ややこしい名前だな」

……駄目だこいつら。そして流されてしまっている俺も。

この大陸が乗っ取られるのも、魔王とアヒルのヤル気の問題か。

万が一の為に、転職を考えておこう。

ちょっと以上に変ったグラタン国の（怠け者）勇者。同じくちょっと以上に変ったその仲間たち。
彼らの旅は、いつか、きっと、多分始まる。

それまではどうか、なんとか旅に出る事を祈ってやってほしい。

一応弁護しておくが、彼等はこの国の立派な勇者たちである。
今更かもしれないが、更に言えば、これまた大陸で1、2を争う強さなんだとか。

そここのところ履き違える事なく、よく覚えておいていただきたい。

To be continued ?

（ところで僕等の名前も、投げやりな付け方でしたよね）
（そこはあえて誰も触れなかったグレーゾーンだ）

（後書き）

続くかもしれない、という感じで書いてみました。短編です。
実際続けてみようかどうか迷っています。

相変わらず短く拙い文ですが、
ここまで読んで下さり有難うございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1918p/>

投げやり勇者！

2011年10月8日05時40分発行